

日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」 4月1日から東北地方92カ所への電力供給を開始

～一般家庭1万9,000世帯^{※1}分の年間使用電力量に相当する、年間約9,000万kWhを供給～



日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事会長：浅田克己）の新電力会社「株式会社地球クラブ」（代表取締役社長：稲橋邦彦）は、2016年4月1日から、東北地方のコープあおもり、いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまの事業所92カ所に契約電力^{※2}計20メガワット（MW）規模の電力供給を開始します。これは、一般家庭1万9,000世帯分の年間使用電力量に相当する、年間約9,000万kWhの供給に当たります。

日本生協連は、原子力発電に頼らないエネルギー政策の実現と持続可能な社会を目指す立場から、再生可能エネルギー普及の一環として、2012年度から全国7カ所の物流施設に太陽光発電設備の設置を進めてまいりました。また、2014年6月20日に、再生可能エネルギーの発電と利用を一体的に推進するため、生協事業所への供給を目的とした「(株)地球クラブ」を設立しました。



（株）地球クラブが電力供給を開始する生協事業所の一つ、いわて生協盛岡南センター（岩手県紫波郡矢巾町）

2015年からは、首都圏にある日本生協連、(株)シーエックスカーゴ、コープみらいなどの事業所170カ所へ、年間約1億4,000万kWhを供給しており、今回の東北地方への供給と合わせて、一般家庭約5万世帯分の年間使用電力量に相当する、年間約2億3,000万kWhの供給量となります。

また、いわて生協、みやぎ生協、コープ東北サンネット事業連合と日本生協連の4者が一部を出資している「(株)野田バイオパワーJP」の岩手県野田村の木質バイオマス発電所が、2016年度上期から稼動する予定です。本稼動後は、(株)地球クラブが電力の一部を調達し、地元のいわて生協はじめ東北地方の事業所へ供給します。これにより、2016年度下期の電源構成では太陽光や木質バイオマス、風力で発電されたFIT電気^{※3}が(株)地球クラブの供給量の約4割となる計画です。

日本生協連では引き続き、太陽光発電や木質バイオマス発電など、再生可能エネルギーのさらなる普及促進を目指してまいります。

※1 世帯数換算は、「家庭におけるエネルギー消費実態について」（資源エネルギー庁・平成22年度）より、1世帯4,618kWh/年で算出。

※2 ピーク時の使用電力を基にした契約量。

※3 FIT電気は、賦課金を通じた国民全体の負担により賄われているものであり、費用負担や二酸化炭素排出係数の取扱いが他の再生可能エネルギー電源で発電した電気と異なり、火力発電による電気なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

<お問い合わせ先>

日本生協連 広報部

TEL：03-5778-8106